

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 計画

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	伊万里市立山代東小学校
1 前年度 評価結果の概要	・「進んで学習」については、校内研究で『学び合い』を取り入れた授業に全学年で取り組み、児童が主体的に学ぶ姿が見られるようになってきている。さらに、めあてについて研修を重ね、より深い学びの実現を目指していきたい。 ・「自分も友達も大切に」については、まだまだ指導が必要である。「一人も見捨てない」という考えを、もっと児童にも理解させ、思いやりのある言葉遣いについての指導に重点を置き、自分も友達も大切にできる学級づくりを推進していく。また、UDについては環境整備のみにとどまっているため、学級経営や授業づくりにも取り入れていく必要がある。ただ、挨拶については、少しずつよくなってきている。 ・「心と体をきたえ何事もチャレンジ」については、「山代っ子ウィーク」を中心に生活習慣の見直しを行うことができた。しかし、その後の振り返りが十分ではないため、なかなか徹底できていないところもある。家庭や児童に、取り組み状況を伝えて、改善するための取り組みを実施していきたい。 ・コミュニティスクールの活動も少しずつ進んでいる。次年度はサポーターの方々に協力していただき、本校独自の人材マップの作成を行う予定である。 ・統合に向けて、修学旅行の実施の仕方やPTA会費のすり合わせなど、少しずつできることから取り組むことができた。さらに、話し合いなどを通して進めていく必要がある。

2 学校教育目標	「笑顔で 元気な 東っ子」の育成
----------	------------------

3 本年度の重点目標	① 「進んで学習」・・・志や希望をもって学ぶ子 自ら関わり、考え、行動し、成長に気づく子 ② 「自分も友達も大切に」・・・ふるさとのよさを知り、大切にするとともに、相手を思いやり、共に生きようとする子 ③ 「心と体をきたえ 何事にもチャレンジ」・・・健やかな心を体をもち、目標に向かって挑戦する子
------------	--

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者	
(1)共通評価項目											
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価			
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	○子ども自らが「学ぶ」授業への転換	○45分の授業において子どもの活動時間を50%確保することができる教師が100% ○毎時間のめあてを児童が分かりやすい言葉で提示し90%以上の児童に達	・校内研究と関連付け、授業研以外でも相互参観週間を年2回計画し授業改善を図る。 ・『学び合い』に関する先進校視察と講師を招聘しての研修会を実施する。 ・児童が自ら学びたいくなるようなめあての立て方についての研修を行う。		・		・		・	学び部	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心身に付ける教育活動	○「自分も友達も大切にできた」と答える児童の割合を85%以上にする。 ○いのちの大切さについて自分の言葉で説明することができる児童が80%以上	・「自分も友達も大切にすること」ということはどういうことかを考えさせる授業を実施し、お互いの思いを伝え合わせたり感想を掲示したりする。 ・いのちの大切さを考える授業実践を年に2回以上実施		・		・		・	こころ部	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○困ったときに、「自分から誰かに相談することができた」と回答した児童の割合が80%以上	・心のアンケート」を毎月実施する。「教育相談週間」「いじめ体罰アンケート」とも併せて、児童のSOSを早期に発見し、全職員で対応する。 ・「SOSの出し方教育」を全学年で実施する。		・		・		・	教育相談担当	
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒85%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・係活動、委員会活動などのなかで児童の主体的な活動を推進する。児童のがんばりやよい行いなどを紹介するコーナーを設置し、職員や児童でカードを記入し、紹介をする。 ・年間指導計画をもとに地域の企業や学校サポーターを活用するなど、各学年で外部講師を招いた体験活動を実施する。		・		・		・	こころ部 学び部	
	○「伊万里っ子しぐさ」を活用した心の教育の推進	○児童が進んで挨拶をしていると回答した保護者や教職員の割合が80%以上	・ボランティア委員会に「あいさつ運動」の取組を提案させる。学期に1回程度全校で実施し、学校だよりや学級通信で取組を紹介する。 ・「あいさつ上手」を紹介する場を設定し、放送などで全校に知らせる。		・		・		・	こころ部	
●健康・体づくり	次の中から1つ以上を選択 ①「運動習慣の改善や定着化」 ⑥「健康を考えて行動できる能力の育成」	○「山代っ子ウィーク」での取り組みを実施する家庭(児童)の割合が85%以上とする。 ○「健康に良い食事をしている」児童生徒80%以上 ○「健康は何より大切だ」「保健で学習したことを、自分の生活に活かしている」と答えた児童生徒80%以上	・年間を通してスポーツチャレンジを実施する。毎月の結果を全校集会等で知らせ意欲付けを行う。 ・「山代っ子の約束」の中から、「早寝早起き朝ごはん」を重点項目として、自分の生活を振り返らせる。		・		・		・	からだチャレンジ部	
	○運動に親しむ児童の育成	○授業以外で運動やスポーツを行う時間を週に2回以上遊ぶ児童の割合を80%以上とする。	・委員会の児童が考えた外遊びを紹介するコーナーを設置し、その遊びをベア学級で学期に1回以上行う。		・		・		・	からだチャレンジ部	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日	・出退勤ボードを活用し、日々の退勤時間を意識させる。 ・長期休業中の研修を減らし、固めて実施することで年休取得をしやすくする。		・		・		・	管理職・教務・事務職員	
	○働き方に関する教職員の意識改革と実践	○働き方に関して、改善したと答える職員が90%以上	・学期に1回アンケートをとり、自身の業務の課題に気づかせ、改善点を考えさせる。 ・年に2回働き方についての研修会を実施し、実践化を		・		・		・		
●特別支援教育の充実	○特別支援教育の理解・啓発の推進	○保護者や全校児童を対象にした特別支援教育への理解の推進を図る。特別支援教育への理解が深まったと答える職員が80%以上とする。	・特別支援学級への理解を図るために、保護者や全校児童に対して啓発の場を設ける。 ・個別の支援計画・指導計画の作成に関する研修、児童理解と支援の方法の研修を実施し、職員の共通理解とスキル向上を図る。		・		・		・	特別支援教育	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目											主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価			
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
○全児童の学びと育ちの保障	○全ての子どもの学びを引き出す学習環境の工夫	○学びやすさを保証するために、①指示の出し方を工夫する②指示や発言内容を視覚化する③板書の情報を精選する④教室環境づくりができる教職員が100%	・学期末ごとに教職員に達成度調査を実施する。 ・①と②については、校内研の事後研で協議の視点として話し合う。 ・UDIについての研修を行う。		・		・		・	学び部	

5 総合評価・ 次年度への展望	
--------------------	--